イエス様と出会うために

久保田　哲　夫

アドベントに入り、クリスマスカードが届く頃になりましたが、11月末から12月にかけて、大学では一番忙しい時で、毎年、クリスマスカードをこの時期に届くように出せた事がありません。最近は、これはクリスマスカードではなく年賀状だと開き直って、冬休みに入ってから、それでもやっぱり、”Merry Christmas and A Happy New Year”と書いて出しています。以前はそこまで開き直っていなくて、三人の博士がもう見えないぐらい遠くを進んでいるのを見送る第四の博士の絵をよく妻に描いてもらいました。

このアルタバン物語は、なぜアルタバンだけが贈り物を三つも持っていたのかという疑問点を除けば、非常に良く出来た物語です。聖書のマタイ伝25章40節「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」を下敷きにして、イエス様に会うとはどういうことかを教えてくれています。

これと同趣旨の物語は、たとえば『靴屋のマルチン』などたくさん作られていますが、そういえば、妻が孫のために買った最後の絵本も、その系譜に入るでしょう。これらの本はクリスマス・プレゼントにふさわしいものです。

ところで、三人の博士は、途中で道しるべの星を見失いました。王様は豪華な宮殿で生まれるはずという世の思いからです。その意味では準備の時間があった博士達より、不意打ちを食らった羊飼い達の方が、迷いなくイエス様の元に行くことができたというのは重要なメッセージです。

イエスの母マリアが「身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださった」と歌い、「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き下ろ」すと宣言したと福音書記者ルカは伝えています。救い主は世の思いとは異なる形で来たということを忘れてはなりません。

アドベントはイエス様の誕生を迎える準備をする期間です。しかし、ただ過去の出来事の記念日としてクリスマスを迎えるのでは意味がありません。世を救うために来られたイエス様と出会うためにはどうすればいいのでしょうか。クリスマスは「わたしの兄弟であるこの最も小さい者」をさがす季節です。

（総合政策学部教授）